

見本 平成十八年度

北海道 公立高等学校入学者選抜 学力検査問題

第一部

国語

注 意

- 1 問題は、**一**から**四**まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、ア、イ、ウ、……の記号で答えなさい。

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

ばらの初夏

ばらの新芽^{しんめ}の しなやかなこと
ちいさな娘^{むすめ}の 手首のように
いのちのながれが
すきとおってみえる

風が ふいた
光が ふった
ばらの新芽に
てんとうむしが とまった

てんとうむしは まるで
ちいさな娘の 手首にひかる
ちいさな腕時計のようだ
耳にあてればコチコチ
初夏の音がする

(注) 新芽——ここでは、「枝から伸びてきた新しい芽」のこと
(工藤直子「くどうなおこ詩集〇」による)

問一——線「コチコチ」と同じく、擬音語が用いられている俳句を、ア～エから選びなさい。

- ア きびきびと万物寒に入りにつけり
- イ あをあとと空を残して蝶^{てふわか}分れ
- ウ ぐんぐんと夕焼^{ゆふやけ}の濃くなりきたり
- エ かんかんと鳴り合ふ竹や神無月^{かんなづき}

問二——線「娘」を楷書^{かいしよ}で書く場合の画数を、ア～エから選びなさい。

- ア 九画
- イ 十画
- ウ 十一画
- エ 十二画

問三 この詩について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア この詩では、「ばらの新芽」の柔らかでいきいきとした様子や、「ばらの新芽」にとまった「てんとうむし」を見て初夏を感じ取ろうとしている様子が、比喩^{ひゆ}を用いて効果的に表現されている。
- イ この詩では、「ちいさな娘」の自由で気ままな様子や、「ちいさな娘」の手首にとまった「てんとうむし」を見て初夏を感じ取ろうとしている様子が、倒置法を用いて効果的に表現されている。

ウ この詩では、「ばらの新芽」の厳かで堂々とした様子や、「ばらの新芽」にとまった「てんとうむし」を見て春のなごりを惜しんでいる様子が、体言止めを用いて効果的に表現されている。

エ この詩では、「ちいさな娘」の朗らかで活発な様子や、「ちいさな娘」の手首にとまった「てんとうむし」を見て春のなごりを惜しんでいる様子が、対句を用いて効果的に表現されている。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、一九六〇年ころに「私」が、組み立て式の鉱石ラジオ（回路に、鉱物などを組み込んだ部品を用いた簡単なしくみのラジオ受信機）を「兄」と二人で初めて作ったときの話です。

まず、これには長大なアンテナが必要である。

それから電波状態のよい場所を占めなければならぬ。¹鉄筋コンクリートの団地の室内などはまずまったくだめであった。説明書に、できるだけ高く長くアンテナを立てろとあった。そうして同時に、この鉱石ラジオというものはいつぼうで確実にアースを付けておかなくてはならなかった。

これらの条件を満足させるために、私たちは釣り竿^{ざお}を持ち出してきて、これにアンテナ線ぐるぐると巻き付けた。アースは鉄でできていた窓の手すりに銅線を巻き付けることによって取れる手はずだった。

よしっ、これでできた。

私と兄とは、この鉱石ラジオを窓際に持ち出し、¹すべての神経を耳に集中して空中の電波を捉^{とら}えることを試みた。

²よしよし、微かに雑音のようなものが聞こえてくる。

私たちの家は四階だから、その窓から長く突き出した釣り竿アンテナは相当に有力な電波探索²の仕掛けに違いはないと思った。

けれどもどう耳を澄ませても、聞こえてくるのはザアザアいう雑音ばかりで、そのなかに意味のありそうな音声はなかなか聞こえてこなかった。

そうやって一時間も格闘していたろうか。

兄はすっかり諦^{あきら}めて、すべてを放擲^{ほうてき}するとふいと部屋を出ていってしまった。

そこへ母が入ってきた。

「どう、聞こえた」

³「だめだめ、雑音ばかり」

どれ、貸してごらん、と言って、本来こういう工作ごとの大好きな母は私たちの工夫した釣り竿アンテナをあっちへ向けたりこっちへ探ったりして音を捉えようと試みた。しかし、それでもちっともなんの音も聞こえてはこなかった。

もう兄はすっかり観念してしまつたらしく、鉱石ラジオをほうり出して漫画を読んでいる。

私は、とっぷりと更^ふけた夜の空に向かつて、もう一度釣り竿のアンテナを突き出してみた。

やはりダメだ。ざざざざーっというがさつな音が聞こえるばかりで、どうもラジオ放送らしいものは拾えない。

その日は、夜遅くなつてからきれいに晴れて良い星空になった。

よし、今晚はいけるかもしれない。私は宇宙船の船長のような気分で、³慎重にかつ周到にアンテナを動かした。

やがてほんの一瞬だけ、雑音のはざまに音楽のようなものが聞こえたような気がした。

あ、ああ、聞こえた！

なんの電源も必要とせず、ただ空中の電波それ自体をエネルギーとして、このいい加減な剥^む

き出しの機械から音が聞こえた。

それはまるで天から声が降ってくるような感じだった。

私は更に注意を指先に集中して再びその音を探り当てた。

そして暫く幽かな幽かな、雑音と音声の渾然と交じり合った音を聴いた。何か人の声も聞こえたが、それが何を言っているのかまでは聞き取れなかった。そのうちに音楽も聞こえたが、その音量はあたかも小さな蛇が花に戯れてわずかな羽音を立てるにも似て、何かが囁くように聞こえているというに過ぎなかった。

それでも私は、そうして空中から音を拾い出すことに成功して、なにかとてつもない発見をしたような興奮を覚えた。そうして科学者になるのも悪くないなあと思ったりした。

ふと見ると晴れた夜空に皓々と月が光り、杉の林のあたりでカラスが鳴くのが聞こえた。

(林 望「東京坊ちゃん」による)

(注) 放擲——ほうり出すこと

渾然——別々のものが交じり合って区別できないさま

皓々——明るく輝くさま

問一 ——線1、2、3の読みを書きなさい。

問二 線1「すべての神経を耳に集中して空中の電波を捉えることを試みた」とありますが、「私」と「兄」が、なんとかしてラジオ放送を捉えようと懸命に試みたことを最もよく表していることばを、文中から漢字二字で書き抜きなさい。

問三 線2「よしよし」と線3「だめだめ」のそれぞれに込められた「私」の気持ちを、次のようにまとめるとき、 ①、②に入る表現を考えて書きなさい。ただし、①は十五字程度、②は三十字程度とします。

「よしよし」には、 めだめ」には、 りしている気持ちが込められている。	① ② という期待が、「だ ため、がつか
---	-------------------------------

問四 線「更に」は、どの文節を修飾していますか、ア～エから選びなさい。

ア 指先に イ 集中して

ウ 音を エ 探り当てた

問五 「私」は、鉱石ラジオで人の声や音楽を聞くことに成功して、自分の将来についてどのような思いをもちましたか、文中のことばを用いて二十字以内で書きなさい。

日本の河川はその流れの多くの部分が林地の中に含まれていて、森林の中を流れる川には、その上に覆いかぶさる樹木から落ち葉が供給され、また虫が落ちてくる。従来は森林生態系と川の生態系は別のものと思われていたが、川の生態系にとって陸上からの供給量は実に大きいということがわかってきている。時期にもよるが、川の魚の食物を調べてみると、ある種の魚は半分は陸上起源の昆虫に依存している。

たとえば、京都府北部の宇川ではアユは石についた藻類を食べ、フナ、ヨシノボリなどはユスリカ、ガガンボなどの幼虫を食べているが、オイカワやカワムツの餌は大部分が陸上起源の昆虫である。北海道のサクラマスでは、六月から十一月までの期間中の平均では、胃内容物全体の六四パーセントが水生動物、三六パーセントが陸生動物であったという。川や調査月によってもことなり¹陸生動物が五〇パーセント以上になる場合もあった。陸上の木の枝に着いているガの幼虫などは、風が吹いたりして枝が激しく揺すぶられると、糸を吐き出して枝からぶら下がってくる。そこがたまたま川の上だと、そのまま川に落ちてしまうことになる。川に落ちてしまった陸上の昆虫は無²力であり、もがいているうちに魚に食べられてしまうのだろう。六月にはガの幼虫が多く、七月にはアリが多いといった傾向もほうこくされている。

川の中にもカゲロウ、カワゲラ、トビケラなどの幼虫たちが棲^すんでいる。これら幼虫たちも、もちろん魚の餌になる。しかし彼らは川の中の生活に適応していて、石の表面にへばりついていたり、石のうら³がわにもぐっていたり、あるいは砂粒を集めて、糞^{みむし}虫の糞のようなものを作って潜り込んでいたりするから、魚にとっては食にくい餌であるに違いない。彼らが簡単に食われるのはたまたま泳ぎだしたときとか、雨のあと流速⁴がはやくなり、流されたときとかに限られるだろう。

それだけではない。そもそも水生昆虫の幼虫の餌も陸上起源であることが多いのだ。たとえば夏に、ケヤマハンノキのような窒素含有量の高い葉を、川水の中につけておくと、数日後にはトビケラの幼虫が多数集まり、葉を食っているのを見ることができ¹る。秋の落葉時期に合わせて十一月に葉を袋に詰めて川においた場合でも、ケヤマハンノキの場合は三〇日後に重さが六五パーセントに減り、一〇〇日で四〇パーセントに減っている。サワシバ、シラカンバ、イタヤカエデ、ヤナギ類なども同じような重量減少²を示している。しかしトチノキなどではほとんど重量減少が認められていない。このように樹種による違いはあっても、川の生物にとつて、陸上からの直接³間接の餌の提供は大きい量に達している。

溪流の上に張り出された木の枝は、夏に太陽の日差しを防ぎ、川の水温があまり上がらないような効果をもたらしている。溪流に棲む、イワナ、ヤマベなどのサケ科魚類はもともと北方系の魚なので、高温条件では活動が鈍ることが知られている。たとえばサケ（シロザケ）の場合、最適水温は一三・五度で、二五・八度が致死水温だという。木の枝によるカバーがあることにより、高温になるのを防ぎ、魚類が棲めるような環境を作り出している。それだけでなく、低木や草のカバーは、魚類の隠れ場にもなっている。

川は水の流れの速い瀬の部分と、水の淀んだ淵^{ふち}の部分とから成り立っている。魚にとっては

流れの遅い淵の方が棲みやすく、実際密度も高い。森林の中の溪流では、木が倒れたり枝が落ちたりすると、その周りに小枝や落ち葉がたまり、大小様々な淵が自然にできあがる。これが魚類にとっての棲み場所を多くしていると考えられている。倒木を利用して人為的に淵を作り、魚類の棲み場所を作るという試みもなされている。

(菊沢喜八郎「森林の生態」(共立出版株式会社刊)による)

(注) ユスリカ、ガガンボ、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ——幼虫のときやさなぎのときに水中で生活する水生昆虫

問一 ——線1、2、3を漢字で書きなさい。

問二 ||線「無力」、「流速」、「減少」、「場所」の四つの熟語のうち、意味の似ている漢字二
字で構成されている熟語はどれとどれですか。組み合わせとして正しいものを、ア～エから
選びなさい。

- ア 「無力」と「流速」
- イ 「流速」と「減少」
- ウ 「減少」と「場所」
- エ 「場所」と「無力」

問三 ~~~~~線1「ケヤマハンノキの場合は……四〇パーセントに減っている」とありますが、こ
のことは、筆者のどのような主張の根拠となっていますか。その主張に当たる一文の最初の
五字を書きなさい。

問四 ~~~~~線2「川の生物にとって、陸上からの直接、間接の餌の提供は大きい量に達している」
とありますが、川の生物のうち「魚」の場合、陸上から直接提供される餌に当たるものは
どれですか、ア～エから選びなさい。

- ア 川の中に棲む水生昆虫の幼虫
- イ 川の中の石についた藻類
- ウ 樹木から供給される落ち葉
- エ 樹木から落ちてくる虫

問五 -----で囲んだ部分では、木や草は魚類の生活にどのようにかかわっていると述べ
られていますか、三つ書きなさい。解答の順は問いません。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

二人の知音、うち連れ立つて行く道で、熊くまといふ獣けだものに行きやうて、一人は木に上り、いま一人は熊と闘うたが、精力が尽くれば地に倒れ、虚死そらじにをしたれば、かの獣の形儀かたぎで、死人には害を為なさぬものぢや。されどもその獣生死の安否を試みようと思つたか、耳のほとり、口のあたりを嗅かいでみれども、死んだごとくに動かなんだれば、そこを退いた。その時、木に上つた者が下りて、その人に近づいて、「さてただいま御辺ごへんに、かの獣がささやいたことは何ごとぞ」とたづねれば、こたへていふは、「かの獣のわれに教訓を為いた、それを何ぞといふに、『なんち向後おん身のやうに大事に臨のぞうで見放さうずる者と知音すな』と。」

〔伊曾保物語〕による

(注) 知音——友人

行きやうて——出くわして

虚死——死んだふり

形儀——習性

御辺——あなた

教訓を為いた——教諭した

向後——今後

問一 〓線「こたへていふは」を現代かなづかいで書きなさい。

問二 〓線「そこを退いた」は、誰だれまたは何の動作を表していますか、ア／＼から選びなさい。

ア 熊

イ 木に上つた者

ウ 熊と闘った者

エ 木に上つた者と熊と闘った者の二人

問三 この文章の内容に合うものを、ア／＼から選びなさい。

ア 木に上つた者は、熊と闘った者に、「大変な時に友人を見放すようなことをしてはいけないと熊から教えられた」と言った。

イ 木に上つた者は、熊と闘った者に、「大変な時に友人を見放したことを謝らなければならぬ」と熊から教えられた」と言った。

ウ 熊と闘った者は、木に上つた者に、「大変な時に友人を見放すような者を友人にしてはいけないと熊から教えられた」と言った。

エ 熊と闘った者は、木に上つた者に、「大変な時に友人を見放した者も許してあげなければならぬ」と熊から教えられた」と言った。